

プレゼンテーション技術演習（二）（2単位）

担当者氏名 松原 創、西野 康人

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

大学院学生には、さまざまな研究集会で自己の研究成果を発表する機会がある。国際研究集会では英語で発表することが求められる。日本語による発表も英語による発表もその内容は科学なので、正確な科学的表現をすることが共通の基礎となる。口演では口語体の、ポスターやスライド内では文語体の表現がそれぞれ必要であり、使用できる語数も異なる。したがって、発表の趣旨を正確に伝えるために、それぞれの機会に応じた補助的技法を施すことが必要になる。本科目では、そうした一連の能力を演習形式で高めることを目指す。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

学術成果発表 口頭発表（講演） ポスター発表 水圏科学の学術用語
Accent と Intonation

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	英語によるプレゼンテーションについて (第1週)	・英語でプレゼンテーションをする意義について	◎文語英語にしても口語英語にしても、日本人が英語を学ぶときに最も重要な基礎は、日本語である。正しい日本語に照らして自己の日本語の欠点を、予め認識しておくことが望まれる。
2	英語によるプレゼンテーションの構成 (第2～6週)	・卒論あるいは現在の研究内容の構成（序論・方法・結果・議論など）を英文で簡潔にまとめる	◎英論文も紹介するため、講義内容のみならず、語学力の向上も図る。
3	英語によるポスター作製 (第7～11週)	・卒論あるいは現在の研究内容を題材として、英語によるポスターの作製を行い、担当者の経験から指導する。	
4	質疑応答について (第12～13週)	・ポスターあるいは口頭発表の質疑応答について担当者の経験から指導する。	
5	演習 (第14～15週)	・作製したポスターを用いて、受講者および担当教員で演習を行う。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
理科系のための入門英語プレゼンテーション 廣岡慶彦 朝倉書店（2011年）、これから学会発表する若者のために -ポスターと口頭のプレゼン技術- 酒井 聡樹 共立出版（2008年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）
授業の進捗に応じて必要な資料を配布する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

出席：50点（教員評価）、演習発表：25点（教員評価）、演習評価（教員：15点及び学生：10点による評価）。

◆オフィスアワー

月～金 8:30～19:30 *1週間前にメールでアポイントメントをとること

◆その他受講上の注意事項

プレゼンテーション技術演習（一）を受講しておくこと。